**編集者の独り言**

月日の移ろいは早いもので，職場近くの錦華公園の緑もひときわ鮮やかさを増し，夏の始まりを感じさせます。前期の講義や学生実験，学内外の会議，様々な業務に追われる慌ただしい日々も，ひと区切りを迎える頃となりました。日頃とは少し異なる，どこかゆったりとした時間が流れ始めます。教育や研究に携わる者にとって，夏は決して「休み」の季節ではなく，むしろ，日常の喧騒から一歩距離を置きながら，腰を据えて次の挑戦へと向き合える，貴重な時間でもあります。そんな夏のキャンパスでは，それぞれの立場で，自らの未来に向けて歩みを進める若い世代の姿があります。

大学では，それぞれの夏，それぞれの世代が異なるステージで，自らの成長と真摯に向き合う季節を迎えます。高校生にとっては，オープンキャンパスや体験実験などを通じて，化学との新たな出会いが生まれる季節でもあります。教科書の中で学んできた化学現象が，目の前で鮮やかな色の変化として現れるその瞬間，あの純粋な驚きと輝く眼差しには，好奇心の原点が凝縮されています。その出会いは，彼らにとって将来への第一歩であると同時に，私たち教育に携わる者にとっても，化学の本質的な魅力を改めて見つめ直す貴重な機会を与えてくれます。

一方，学部生たちは，日々の講義や学生実験，膨大なレポート作成，そして学期末試験に向けた学修を通じて，科学者・技術者としての基礎を着実に積み重ねています。思うような結果が得られない実験や，理論と現象の間で葛藤する経験も少なくありません。その一つ一つの積み重ねこそが，将来，自らの力で課題を解決できる研究者・技術者へと成長するための礎となります。

そして大学院生にとっては，この時期は研究に没頭できる貴重な時間でもあります。講義という枠組みから離れ，自ら課題を設定し，仮説を立て，実験を重ね，時には孤独や葛藤と向き合いながら，世界で誰も知らない新たな知見の創出に挑んでいます。その真摯な姿勢の中には，次代の科学技術を担う研究者としての確かな成長を感じます。

高校生，学部生，大学院生――置かれた環境や立場はそれぞれ異なっていても，それぞれの「夏」が始まります。彼らは皆，未来に向けて自らを高めようと日々挑戦を続けています。本誌に掲載された最先端の研究成果や産学官の取り組みが，そうした若い世代に新たな刺激と気付きを与え，次なるイノベーションの火種へとつながることを願ってやみません。

最後になりますが，一編集委員として，本誌の編集に携わる機会をいただき，多くの学びと，かけがえのない経験を重ねることができました。そのことに，改めて深い感謝の気持ちを抱いております。そして，何よりも本誌を温かく支えて下さっております日本化学会会員の皆様に，心より感謝申し上げます。本誌が，読者の皆様にとって新たな発見と学び，そして未来への挑戦につながる一冊となれば幸いです。（伊掛浩輝）

## カラー写真ご提供のお願い

化工誌編集委員会

本誌の目次や編集者の独り言下に掲載するカラー写真を広く会員の皆様からのご投稿をお願いしています。ご投稿いただいた写真は編集委員会で適宜選択して使わせていただければと考えています。ご投稿の際にはごく簡単な説明をつけていただき，電子ファイルの場合には高解像度のもの（300DPI 以上）をお送り下さい。

以下のような写真のご提供をお待ちしています。

1. 季節感のあふれた風景・草花・野鳥・動物の写真など
2. 化学に関する写真―カラフルな物質，化学模型，電顕写真，実験機器，化学プラントなど

送付・問合先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
日本化学会　学術情報部　「化学と工業」誌担当
FAX（03）3292-6319　E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp

シラネアオイ　務台　潔